

〈研究ノート〉

ケイト・グリーンウェイのカレンダー（1884）

高松節子

要約

1657年に書かれた『世界絵図』（*ORBIS SENSUALIUM PICTUS*）は絵を教育の重要な手段として用いたという点で教科書の歴史のうえで最も重要な本の一つで、作者コメニウス（Comenius）のすべての知識はまず感覚を通して心に達しなければならないという原理は、そのあとから出た無数の教科書や、児童書に 응용されている。『靴ふたつさん』（*GOODY TWO-SHOES*）を出版したJohn Newberyは子どものために楽しみの要素をもつ本を作りだした心やさしい書籍商兼出版業者で、1922年以来毎年アメリカ在住の最も優れた児童書の作者に贈られる賞にその名を冠している。

ここに挙げるイギリスの18世紀から19世紀末までに出版された優れた絵本34点からはそれらがそれぞれの時代の子どもの目を輝かせ、また昔話、寓話は今に引き継がれ、子どものための詩はヒューモラスで、ナンセンスな言葉が笑いを運び、歌に乗せて子どもを飛び跳ねさせ、優美で繊細な挿絵は大人の目も楽しませることが伝わる。

キーワード 子ども、児童書、イギリス、18世紀、19世紀末、挿絵画家、出版業者、ヒューモア

目次

1. 序
2. 児童書と子ども
3. 結び

1. 序

「国際児童年」であると同時に、日本－カナダの修好50周年にもあたる1979年に「復刻 世界の絵本館－オズボーン・コレクション－」が「ほるぷ出版」から刊行された。

トロント公共図書館「少年少女の家」が所蔵するオズボーン・コレクション（The Osborne Collection of Early Children's Books）は世界の、とりわけイギリスの絵本や児童文学の草創期から20世紀にいたる古典的な図書の最も充実した宝庫として世界に知られている。

この「復刻 世界の絵本館－オズボーン・コレクション－」はその1万5千点もの膨大なコレクションの中から、とくにイギリスの18世紀にはじまって19世紀末までの古典的絵本を中心にすぐれた作品34点と付録1組を厳選し、その内容や絵の色調はもとより、判型、装幀などの形体にいたるまでを完全に再現し復刻している。

その中にあるケイト・グリーンハウエイの『窓の下で』の付録が『ケイト・グリーンハウエイのカレンダー（1884）』である。縦約19cm、横約26cmの封筒の中に4枚が1セットにされて入っている。封筒は表に羽飾りの帽子を被って暖かそうなロングドレスを着た母親とその両側に其々帽子を被って長いオーバーコートを着た男の子と暖かそうなロングドレスの女の子が手をひかれているグリーンハウエイの挿絵が描かれている。男の子は“A HAPPY. NEW YEAR TO. YOU”と書いてあるカード、女の子は“CHRISTMAS IS COME”と書いてあるカードを手を持っている。男の子のカードのNの字が正しくまだ書けないらしく左右が逆になっている。右上の切手を張る個所（LETTER POSTAGE）には郵便料金2ペンス（2d）、書籍小包（BOOK POST）（注：2007年10月からはユーメールという総称にまとめられた）1ペニー（1d.）（両端を切って紐でしっかり結ぶ（Slit open the ends and tie cord.））という印刷がある。

グリーンハウエイの作品の中で、「暦（Almanack）」シリーズは人気があり1896年を除いて1883年から1897年まで毎年出版された小型本であったが、この『ケイト・グリーンハウエイのカレンダー（1884年）』は、1884年に試みられた実験的な出版であって、営業的な理由でその後は出されなかった。

今年（2008年）のカレンダーと日付や曜日がまったく一致しているのに喜んでのタイトルであったが、4月2日に101歳で、「雲に乗ってしまわれた」『ノンちゃん雲に乗る』の石井桃子さんが、すでに「復刻 世界の絵本館－オズボーン・コレクション－」解説（ほるぷ出版）に1980年の暦とまったく一致しており、1979年11月に発行される「復刻 世界の絵本館」の付録としてまことにふさわしいものとなったと書いておられたのである。

本稿では「復刻 世界の絵本館－オズボーン・コレクション－」の作品を引き合いにしながら子どもと児童書のかかわりを調べる。

2. 児童書と子ども

2.1 『世界絵図』（*ORBIS SENSUALIUM PICTUS*）は1657年にチェコのモラヴィア出身の神学者、教育者で、理想主義者であったJohn Amos Comenius（1592-1670）によって書かれた。この本は略して*Orbis Pictus*と呼ばれているが、子どものために作られた最初の絵本と言ってよい。世界についての本質的な知識を絵と文を組み合わせで見せようとする主旨に貫かれている。最初ラテン語で書かれたものが、つぎにドイツ語、それからヨーロッパ諸国のことばに翻訳され、最初の英語訳は1959年に出た。挿絵は、木版から銅版に換えられ、英語の文が左頁、ラテン語が右頁におかれている。イギリスではその後の数年間に挿絵を変えたり文章を新しくして頻繁に刷られた。「復刻 世界の絵本館」に収められた『世界絵図』は1777年に出た、英訳本としては最後のものである。1755年に完成した*Johnson's Dictionary (A Dictionary of the English Language)*に見られる 'long s' や所謂 'short s' が使われている。153章から成り、各章に一つずつ絵や図がついていて、絵の細部に番号をふって、それを言葉で説明している。第1章は「学びへの招待」で、師と生徒との問答が

入っている。どれも、グラマー・スクール（16世紀につくられた。のちにはパブリック・スクールになる）で勉強しはじめようとする子どもに理解できる程度のやさしい言葉で説きあかしてある。「結び」は「英語とラテン語で世界のことを学んだのだから、さあ、これから読書に精を出しなさい」と説いている。

教科書に用いられた本の、これが最初の例である。

2.2 『靴ふたつさん』(*GOODY TWO-SHOES*) (1766年版の復刻) は子どものための最初の英国の出版業者であったJohn Newbery (1713-1767) によって1765年に出版された。*The Renowned History of Little Goody Two Shoes, Otherwise Called Mrs. Margery Two Shoes*という長い題名の本で、子どものために書かれた最初の本である。

初版の表紙は、多色刷りの、厚手のオランダ製花型紙で製本され、縦9.8cm、横6.2cmで、とくに子どもが手にとり、読んで楽しむためにつくられていた。Gold Smithが書いたとする議論もあるが、この本の表紙にはローマのバチカンに行けばこの本の原稿があってその挿絵はミケランジェロによるものであると書いてあり、そこには出版者John Newberyのユーモアのセンスがあらわれている。

John Newbery は、物書きであり、出版者であり、経済的に恵まれない作家の味方であり、事業や製造業を発展させ、また医療を学んだ‘医学事典’でもある人格者であった。The Newbery Medalは*Publisher's Weekly Magazine*の編集長Frederic G. Melcherによって設けられたものであり、1922年以来アメリカ図書協会の児童部門から毎年最も優れた児童書を書いたアメリカ合衆国在住の著者に贈られる賞である。『ドリトル先生…』シリーズのHugh Loftingの『ドリトル先生航海記』(*The Voyages of Doctor Dolittle*, 1922) は1923年の受賞作品である。

『靴ふたつさん』は社会的な教訓があふれているが、Charles Lambがその面白さは子ども時代に読まれるべきものであると評している。たいへん人気があったこの本は200年間に約200回も版を重ねた。

2.3 『新年の贈り物』(*A NEW YEARS GIFT For Little Masters & Misses*) は、茶色の小箱に入った9cm四方の文字のない絵本で、31枚の木版画で構成されている。そのうちの13枚は、「シンデレラ」、「長ぐつをはいたねこ」、「赤ずきん」のお話の挿絵になっている。これらのお話は、もともと、アカデミーフランセーズの会員、Charles Perraultの*Histoires or Tales of Long Ago with Morals* (Paris, 1697) に出てきたものだが、1729年までは英訳されなかった。絵は木版師、Thomas Bewickによるもので、1777年にNewcastleで出版された。Bewickは子どものための挿絵画家として最初に認められたイギリス人画家である。彼の残した最も大きな功績は、画面に立体的な効果を与えるThe White Line (白線彫刻) を導入したことである。

先の(2.2)『靴ふたつさん』の挿絵もおそらくBewickであろうといわれる。彼の気品あ

ふれる木版画は、本文と同調するもので、伝えたいことばの意味を正確に説明していて、物語を解釈していわば照らし出しているといえる。

2.4 『誕生日の贈り物』(*The BirthDay Gift or the Joy of a New Doll*) はオズボーン・コレクション所蔵のものでは最古のpicture book(絵本)である。つまり幼い子どものための本で、ストーリーを伝えるための文がついている。これは先の『新年の贈り物』がbook of pictures(絵の本)であったのに対して、はっきりした題材を持っている。

この本は1796年1月18日にTomkinsから刊行され、表紙のタイトルの上にPrincess Ameliaに献呈されるものであると書いてある。George III(1738-1820)の末娘のこの王女をモデルにしたと思われるかわいらしい少女とお人形との遊びの様子が7枚の薄緑色の紙に描写されている。絵はLady Elizabeth Templetownによる切り紙から銅版刷りされている。各カットの下にはThe Finding The Doll. (「お人形を見つける」)、Doll At Breakfast. (「お人形の朝ごはん」)、My Doll Shall Walk. (「私のお人形は歩く」)、Look Sister At My Pretty Doll. (「お姉さま、私のきれいなお人形を見て」)、Hold The Doll While I Prepare Her Things For Bed Time. (「お人形が寝る用意をするあいだ、お人形を抱いていて」)、Putting Doll To Bed. (「お人形を寝かせる」)、Lullaby. (「子守りうた」とひとつひとつ銅版刷りの説明文が付いている。

1796年にTomkins社から発行されたこの本は、その広告のラベルが表紙の裏側に刷られている。

2.5 『コック・ロビンの死と埋葬』(*The Death and Burial of Cock Robin*) と『トロットおばあさんとこっけい猫君の奇妙な冒険』(*The Moving Adventure of Old Dame Trot and Her Comical Cat*) はいずれもChapbookとしても人気のある本であった。Chapbookとはchapmenすなわち17世紀から18世紀にかけて瓦版や詩、などを扱う行商がそれらと一緒に持ち歩いて売っていた安価な小さな冊子である。それらの特徴は文学的な魅力や文法的な正確さからはおおよそ離れているがどのページにも冒険に満ちた躍動感が見られる。イギリスでもインテリ階級は見向きもしなかったが、市井の人々には愛され買われ続けた。もちろん子どもたちはすぐそれに気づき行商の熱烈なファンになったのである。

Chapbookは装丁も簡単でただ折り曲げただけのもので16ページから32ページあるいは64ページである。

『コック・ロビンの死と埋葬』はすぐれた彫版師William Dartonによって1806年に発行された。16ページの彩色の版画が折り曲げられた形で、縦12cm、横10cmのピンク色の表紙が付いている。マザーグースの有名な謡であるが、イギリスでは14世紀にはすでに知られていたものと思われる。

『トロットおばあさんとこっけい猫君の奇妙な冒険』は同じように伝承の童謡で、1807年にWilliam Dartonが弟のThomasと共同でW.&T. Darton社から発行したが本の表紙に作者

を架空の「L****公爵夫人」とし、挿絵は「Joshua卿の手になる優美な版画」とされているのは、この多才な兄弟のヒューモアであろう。無彩色で、縦12cm、横10.5cmの同様の装丁である。裏表紙には彩色も無彩色も6ペンスで、先の『コック・ロビンの死と埋葬』、『続・トロットおばあさんと猫』、その他3種類の本を挙げてあり、VALUABLE BOOKS FOR CHILDREN AND SCHOOLS（子どもと学校に相応しい本）と広告している。文字は所謂 long Sなどがみられる。

2.6 『ちょうちょうの舞踏会とバッタの宴会』（*THE BUTTERFLY'S BALL AND THE GRASSHOPPER'S FEAST*）は弁護士であり、銀行家であり、植物学者であり、歴史家であり、詩人であり、本収集家であり、美術の鑑識家であり、国会議員でもあったWilliam Roscoe（1753-1831）が初めは幼い息子Robertの誕生祝いにと書いた詩であった。1806年11月6日号の*The Gentleman's Magazine*（辞書編纂家Dr. Johnsonも議会記事を寄稿している）にこの詩が載り、George III夫妻の目にとまり、夫妻は王女たちのために王宮のオルガン奏者George Smart卿に曲をつけることを委嘱した。John Harrisは作者の名を付けずにこの詩を1807年にロンドンで出版した。銅版刷りの文字と挿絵は若いWilliam Mulready（1786-1863）の作品であった。出版されるや否や大成功をおさめた。横10cm、縦12.5cmのこの詩の本は扉の前のページ一枚の銅版画につけられた次のような呼びかけの言葉で始まる。「さあみんな。帽子をかぶって、急ごうじゃないか。ちょうちょうの舞踏会とバッタの宴会へ。」以下、各ページに一枚ずつの銅版画13枚に、それぞれ2行か4行の短い詩がそえられている。*Children & Books*の初期の児童書の章の中の“Milestones in the History of Children's Literature”には1484年の*Aesop's Fables*から1908年の*The Wind in the Willows*まで47冊がリストに挙がっているがその中に*The Butterfly's Ball*も入っている。

続編『くじゃく家の祝宴』（*THE PEACOCK "AT HOME"*）は著者が匿名の「淑女」（A LADY）ということで、1807年9月に出版された。この「淑女」はのちに、Mrs. Dorset（1750?-1817?）であることが判明した。この本にもWilliam Mulreadyの絵からの銅版画がつけられた。この二つの本は、まったく道徳的な教訓を与えようという意志なしに子どものために書かれた、最初のイギリスの本であろうと評価されている。

19世紀にはじめて児童書に彩色の挿絵がもたらされたが、なんといってもその先駆けになった挿絵画家は*THE BUTTERFLY'S BALL AND GRASSHOPPER'S FEAST*に白黒の楽しい版画を載せたWilliam Mulreadyであった。この「復刻 世界の絵本館」に入っている『くじゃく家の祝宴』は1808年版であるが、その挿絵には、1808年3月1日の日付が刷られている。この版の挿絵は、1807年版のものを彫り改め、手で彩色したものである。

John Harrisや彼と同時代の出版業者は、当時、子どものために適当な読み物とされた道徳的な本も出してはいたけれども、この新しい陽気な雰囲気は、児童書の出版に変化をもたらした。『ちょうちょうの舞踏会とバッタの宴会』と『くじゃく家の祝宴』は、Harrisの全出版物中、最も有名なものであり、今日まで多くの全集に加えられてきた。この2冊は、19世

紀の半ばまで、英語圏の子どもたちを楽しませてくれたのである。

2.7 『幸せの館』(*THE MANSION OF BLISS*) は修身的なテーブル・ゲームである。日本の双六に似ていて、銅板刷りの34場面の絵が横45.5cm、縦57cmの麻布にらせん状に張り付けられた形である。それを折りたたんで、装飾的な縦19.5cm、横12cm、厚さ1.5cmのボール紙の箱に収めてある。付属のルールブックには、このゲームは2人から12人で遊ぶことができることや、コマをまわして自分の駒を進めたり、退いたり、待ったりルールに従って動くうちに、自然に道徳的な考えが教えこまれるしくみが書いてある。1. から34. までの其々の絵に対する説明には、1. 無邪気な遊戯 (Innocent Amusement) これは子どもたちが楽しく遊べる最上のゲームです。もう1度コマをまわしなさい、5. よいお手本 (Good Example) さらに修練するために、学校 (11) へ進みなさい、11. 学校 (School) 学校でよく勉強したので、7つ進んだうえ、みんなから1点ずつもらいなさい、15. 親には従え (Obedience to Parents) 両親によく従う人は、みんなから1点ずつ集め、その努力と思いやりのため2度のチャンスが与えられます等と、いかにも当然ななりゆきに思われる。12. と18. は、「動物虐待 (Cruelty to Animals)」と「鳥の巣荒らし (Taking Birds' Nests)」を、それぞれいまして、学校へまじめにゆき、よく勉強することは激励されている。

このゲームのデザイナーであるT. Newtonについてはほとんど知られていないが、彼は『幸せの館』と同じ年の1810年に「徳がむくわれ、悪徳が罰せられる新ゲーム」も発明している。子どもたちのためのテーブル・ゲームはGeorge IIIの治世の初め、1760年ごろにあらわれた。この新しい分野の草分けとなったのは、地図製作者たちである。彼らは銅板から黒白、または着色版で旅の地図ゲームをつくって市場に売りだした。進歩的な教育家たちは、教室で使う地図と、地図をとり入れたゲームとの結びつきを歓迎した。しかし多くのデザイナーは教科書的なテーマよりも、道徳的なものを好んだ。好んでとりあげられたのは、イギリスの君主の家系である。それまでにあった、おとなの賭博的ゲームを子ども用になおすためにさまざまな道徳的な要素が、ゲームの進行のルールのなかに組みこまれ、また、サイコロの代わりに、まわしゴマが使われるなどした。高価(『幸せの館』はSix Shillings [shillingは1971年以前の英国の貨幣単位、新制度では1poundは100penceとなり、shillingは廃止。1pound=100pence; 1971年以前の旧制度では1pound=20shillings=240pence])で贅沢な、こうしたゲームを与えられた子どもたちは、大喜びしたことだろう。内容には教訓的意図がかくされていたとしても、これらのゲームは、たのしい娯楽への大きな前進であった。

『幸せの館』は、彫り、デザイン、色に関するT. Darton出版社の高いレベルを示している。

2.8 〈チャップブック〉『ダイヤモンドとひきがえる』(*DIAMONDS AND TOADS*)、『聖書のお話』(*SCRIPTURE HISTORIES*)、『ジャックとジルとギル奥さん』(*JACK AND JILL, AND OLD DAME GILL*) は先にふれたChapbookである。

フランス人のCharles Perrault (1628-1703) は1697年に民間伝承の物語を集めた*Histories*

or *Tales of Long Ago with Morals* 通称 *Tales of Mother Goose* で彼の名を不朽ならしめ、1729年には Robert Samber によって英訳され、*Little Red Riding-Hood, Sleeping Beauty, Bluebeard, Puss in Boots, Cinderella, Hop o'my Thumb* などの物語がイギリスはもとよりヨーロッパに広まった。『ダイヤモンドとひきがえる』は Perrault の物語の中でも比較的知られていない、「仙女 (*Les Fées*)」というお話の英訳である。副題に「報われた謙譲と罰を受けた高慢 (*Humility rewarded, and Pride Punished*)」とある通りシンデレラにも似た薄幸の末娘が幸せになるお話で、1810年に発行された。縦10cm、横6cmで、1ペニーと書いてある。14ページの本には5枚の木版画の挿絵がある。Chapbookはもともと大人向けにつくられた本なので、子どもに不適當な場合も多かったが、子どもたちが好むものを選び出して自分たちのものとした。18世紀の半ばごろには、出版社は、子どもというものが有望な本のマーケットになりうることを認めるようになった。その結果とくに子どもの興味をひきつける種類のchapbookがつくられるようになった。

『聖書のお話』は、旧約、新約の聖書から、天地創造 (*The Creation of the World.*)、アダムとイブ (*Adam and Eve.*)、ノアの方舟 (*Noah's Ark.*)、バベルの塔 (*The Tower of Babel.*)、ソロモンの寺院 (*Solomon's Temple.*)、キリストの降誕 (*The Nativity & Passion of our Blessed Saviour.*)、キリストの死と昇天 (*Christ's Death. The Ascension of Christ.*) の八つのお話を再話して載せている。この本は、最後の部分に、「セント・ポール寺院の記述」 (*Description of St. Paul's Church.*) として、セント・ポール寺院の様子を説明している。その境内は、John NewberyやJohn Harrisが本屋を開くなど出版の主要な市場となり、中央回廊はPaul遊歩道とも呼ばれて、当時のロンドン市民に親しまれた。

Chapbookに入っている小さな木版画の挿絵は、本文とは何の関係もなしに、ひとつの出版社のなかで、ちがった本にも何度も使われることが多かった。しかし、『聖書のお話』の中の挿絵には、本文とあったものが使われている。1825年にWellingtonでF. Houlston & sonから出版された。1828年からロンドンにも事務所をもち、非常に大部数の日曜学校向けパンフレットを出す版元として知られていた。

『ジャックとジルとギル奥さん』は16ページ (1折分) の小さな未製本版なので、ひろげると1枚の大きな紙になるが、すでに本のかたちに折ってあるので、自分で縁をカットして製本するようになっている。15の短い詩と、それぞれ一つずつのカットから構成されている。最初の第2ページは、Jack and Jillという有名なマザーグースの詩からそのままとられているが、古くから伝わるイギリスの童謡で、おそらく、17世紀の初めごろから知られていたと思われる。あとの13節は、19世紀の初めごろの多くのChapbookにはいつているが、作者不明でのちに付け加えられたものである。木版画は、“Punch”の挿絵画家のひとりでもあるGeorge Cruikshankが絵を描き、Thomas Bewickの同時代人であるA. R. Branstonが彫っている。これらの絵には、Chapbookの挿絵を向上させようとするJ. G. Rusherの強い関心が示されている。

2.9 『市場めぐり』(*A VISIT TO THE BAZAAR*)は1818年にJohn Harrisによって出版された。表紙にはCORNER OF ST. PAUL'S CHURCH-YARD (St. Paul遊歩道角)と書いてあり、彼の書店の様子が描かれている。『市場めぐり』は、彼が挿絵に木版画でなく銅版画を効果的に使用し、みごとに色を使いこなした顕著な例である。

本文の作者は不明だが、この本には、手彩色の点刻版画が32枚つけられている。線のかわりに点を使う点刻法は18世紀から19世紀の初めにかけて普及した版画技術で、チョーク画の効果をねらったものであった。本をより美しくするために、手で銅版画を彩色する方法がとり入れられたのは19世紀の初めのことである。そしてこの方法は、子どもの本の一つの重要な特徴となった。

『市場めぐり』は、Durnford家の4人の子どもが両親につれられてロンドンのソーホー広場のバザー(市場:Bazaar)を訪れる様子をえがいている。この大きな施設は、John Trotterという人物によって1816年に設立された。彼の目的は、「女性を力づけ、国内産業を促進する」ことであった。ナポレオン戦争や、船乗りの未亡人たちに多額の資本を持たなくても商売を始められる機会を与えたのである。ソーホー・バザーは、たちまちのうちに人気を呼んで、1816年2月に開かれてから3か月以内に商人の数は1日平均200人に達し、客は2500人が集まるようになった。1818年の『市場めぐり』の出版によって、John Harrisは英国の上、中流階級の子どもたちにはなじみぶかく、興味ぶかいものであったに違いない最新の話題を提供して、多くの読者を獲得した。読んでいくうちに、Durnfordの子どもたちと一緒に、いろいろな物の作り方、産地・品質・歴史などの知識を得ることができるようになっており、当時のロンドンの市場風俗を知るのにも格好の絵本になっている。現代の子どもたちがH. A. Reyの*Curious George*シリーズで社会の仕組みを学ぶのを連想させる。

2.10 『大洋に棲む動物たち』(*THE OCEAN AND ITS INHABITANTS*)は1844年にDarton & Clark社から出版された。先の『コック・ロビンの死と埋葬』や『トロットおばあさんとこっけい猫君の奇妙な冒険』を出版したWilliam Dartonは1836年に出版業から引退したが、息子のJ. M. Dartonはその後をひき継ぎ、義理の兄弟、Samuel Clarkと共同経営を始め、Darton & Clarkの名で1845年ごろまで続いた。『大洋に棲む動物たち』はDartonとClarkが1844年から始めた子ども向けの教育的読み物シリーズの第1巻であった。姉妹編である『世界とその住民(*The World and Its Inhabitants*)』(1845)と同じく、この本の文も、おそらく、Samuel Clarkが書いたものと思われる。このシリーズには、手彩色の石版画の挿絵がついている。横17cm、縦21cmの赤い表紙のこの本は子どもの手に取りやすい大きさである。

Samuel Clarkは出版業者としてその勤めをはたす一方、Oxford大学に入学し、1846年に卒業した。彼はすばらしい教師として17年間の奉職中に多くの新しい教育法を導入した。

『大洋に棲む動物たち』の本文は、幼児向けにはっきりとした大きな活字で、長い単語は読みやすいように音節で区切って印刷されており、魅力的で、しかも教育的な読み物の必要

性を認めた教育者によって書かれたことが、はっきりわかる。著者は序文の中で、子どもの想像力を満足させるために、「正確な絵と色づけ」で、事実に忠実な挿絵をつけることに最大の注意を払ったと述べている。彼はまた、「このような教育的な本は、童謡などに親しむことをやめてもらおうとして作ったものではなくて、博物学への関心は、授業として子どもの頭に重荷をかけることなく、子どもがごく幼いころから目覚めさせることができ、かつ目覚めさせるべきであるというのが自分たちの考えだ」と言っている。そして、絵が子どもたちの健全な好奇心を呼びますとき、彼らは喜んで本を読むであろうと結論している。

2.11 『伝説おとぎ話集』(*THE TRADITIONAL FAERY TALES of Little Red Riding Hood, Beauty and the Beast & Hack and the Bean Stalk*) は1845年にFelix Summerlyが編んだ「おとぎ話」の合本で、木版で美しく手彩色されている。

8人の子どもの父親として、そのころ、昔話や伝説のような伝承文学のたぐいが人々の手に入りにくくなっていることを残念に思っていたHenry Kohl卿（1808-82）は「子どもたちの愛情、空想力、想像力、観賞力を涵養する」ために、1843年にFelix Summerlyというペンネームで、*Home Treasury*（「家庭法典」）シリーズを創刊した。内容の質的向上に加えて、Summerlyは、「子どもの心をひくには、芸術的に最低の絵でも十分だ」という当時の考えに挑戦し見た目の美しさにも気を配っている。Victoria女王の夫君Prince Albertの親友でもあったSummerlyは当時の美術界で、画家、肖像画家、デザイナーとして名のあった王立美術院の3人の会員に「赤ずきんちゃん」、「美女と野獣」、「ジャックと豆の木」の挿絵を描いてもらっている。KohlはRoyal Albert Hallの建設の提案者でもあり、1851年、ロンドンで行われた世界最初の万国博覧会の成功にも組織的手腕を発揮した。1875年、Kohlは公益事業へ貢献した功績によってKnightの称号を授けられた。

金箔をうまくあしらった装丁を見て、「この小さな本は見ただけで……花束を思わせる」と評されたこの『伝説おとぎ話集』は19世紀後半を通じて、本の内容やデザインが、事実から空想的なものへと移っていく傾向のあったことを例証している。

2.12 〈イギリス昔話集〉『サウザンプトンのビーヴィスの冒険』(*THE GALLANT HISTORY OF BEVIS OF SOUTHAMPTON*)、『美しの乙女ロザモンドの死への哀歌』(*A MOURNEL DITTY OF THE DEATH OF FAIR ROSAMOND*)、『忍耐娘グリセルのゆかしい物語』(*THE SEIT AND PLEASNT HISTORY OF PATIONT GRISSEL*)

この3冊は、どれも、William J. Thoms（1803-85）の編集した「ガマー・ガートンのお話の本 (*Gammer Gurton's Story Books*)」というシリーズに入っていた本である。Thomsは、1846年8月22日付のロンドンの文芸雑誌*The Athenaeum*に載せた記事の中で初めて“Folklore（民間伝承）”という新しいことばを造って用いた。以来このことばは国際的に使用されるようになっていく。1849年、彼は文学と美術や歴史についての情報交換を目的とする週刊誌 *Notes and Queries* を創始した。語源学者のWalter William Skeatはよく寄稿している。

これは現在でも学術誌として毎月刊行されているが、そのモットーである“*When found, make a note of*”はDickensの*Domby and Son*のCaptain Cuttleの口癖である。

Thoms は世に知られている古い物語の紹介に強い関心を持っていたので、子どものために12の物語を集め、編集しなおし、校訂して、「Ambrose Merton, F. S. A (Fellows of the Society of Antiquary=古物研究家協会特別会員の略)」、またはそれを略したAmb. Mert. というペンネームで出版した。彼はそのなかで、自分の意図は「子どもの心を養い、空想力を豊かにし、思いやりの気持ちをかきたて、美しいものに対する眼を育てること、しかもそれを、楽しみを求める子どもの性向を利用して実現すること」にあると述べている。Gammer Gurton's Storyシリーズに入っている物語はひとつの話が1冊の薄い本に仕立てられて出版された。その堅い紙表紙には、はでな装飾がほどこされ、それぞれの小冊子には色刷りの口絵がつけられている。これらの本はまたThe Old Story Books of England (1845) という題で、色刷り、あるいは黒白の挿絵をつけた1巻本としても出版された。THE GALLANT HISTORY OF BEVIS OF SOUTHAMPTONはミントグリーンと金色、A MOURNFUL DITTY OF THE DEATH IF FAUR ROSAMONDは赤と金色、THE SWEET AND PLEASANT HISTORY OF PATIENT GRISELはロイヤルブルーと金色の表紙で、横12cm、縦16cmの美しい本である。『美しの乙女ロザモンドの死への哀歌』はThomsがThomas Percy (1729-1811) のReliques of Ancient English Poetryのなかから採ったballade で、『忍耐娘グリセルのゆかしい物語』の源話は1348年から1353年にかけて書かれたGiovanni Boccaccio (1313-75) のDecameron (『十日物語』) のなかにある。それをイタリアの詩人Francesco Petrarca (1304-74) がラテン語に訳し、さらにGeoffrey Chaucer (1340?-1400) のCanterbury Tales (『カンタベリ物語』) のなかでは「聖職者の話」のテーマとして使われている。

先(11を参照)のHome TreasuryシリーズとGammer Gurton's Story Booksシリーズは、どちらもJoseph Cundallの会社から出版され、印刷は高度な印刷技術で知られたロンドンのChiswick Press 社のCharles Whittingham (息子) が受けもった。Home Treasury 同様、Cundall はGammer Gurton's Story Books にも挿絵に優秀な画家を起用している。これら二つのシリーズは、1858年、50枚の挿絵をつけた1巻本として再発行された。

この著者たちはふたりとも、質の良い挿絵、質の良い活字を使い、本の造りにも心を用いて、子どもたちの趣味を向上させ、その想像力をそそった。

また、伝説や昔話がイギリス児童文学の歴史のうえで榮譽ある地位を獲得したのは、W. J. ThomsやHenry Kohl卿、またこの二人のために出版をひきうけたJoseph Cundallのような人びとの力によるところが多い。

2.13 『親指太郎とセリーグぐつ』(*HOP-OMY-THUMB AND THE SEVEN-LEAGUE BOOTS*) は1853年にロンドンのDavid Bogue社から出版された。縦17.5cm、横13.5cmの薄い本で、George Cruikshank (1772-1878) によって描かれている表紙絵には下のほうに1

shilling. と書いてある。裏表紙には『ジャックと豆の木』が近日発行される宣伝がある。

Cruikshankは1823年初めて英訳された「グリム童話」の選集であるGerman Popular Storiesに、みごとな12枚の銅板の挿絵を描き、1826年の第2巻には、10枚描いた。批評家John Ruskin（1819-1900）は、1868年に再発行されたこの本を紹介した際、レンブラントにも匹敵するとCruikshankの絵を激賞した。彼はCharles Dickens（1812-70）の最初の挿絵画家でもあった。Dickensの*Sketches by Boz*（1836）と雑誌に連載物として出た*Oliver Twist*（1837）に銅版の挿絵をつけた。

1847年Cruikshankは禁酒主義の熱狂的な支持者になった。George Cruikshank's Fairy Libraryシリーズの第1巻である『親指太郎とセリーグぐつ』は、彼のこの新しい主義から直接生まれた作品といえる。このシリーズは『シンデレラ』（1854）、『ジャックと豆の木』（1854）、『長ぐつをはいたねこ』（1864）とつづいて、1865年に1巻にまとめられた。

「親指太郎」が、最初に登場するのは、Charles Perraultの*Histoires or Tales of Long Ago with Morals*（Paris, 1697）の「親指こぞう（Le Petit Poucet）」としてである。この話の中の鬼の残忍な行為がアルコールのせいであるという、Cruikshankの禁酒主義にとってかっこうの骨組を使って彼なりに翻案した。Dickensはその本のCruikshankの絵を賞賛しながらも、物語を非難して、「昔話に対する詐欺行為」という一文をDickensが1850年に創刊・編集した文芸週刊誌 *Household Words*（1853）に発表した。二人は20年間にわたり緊張したり仲直りしたりの連続であった。

CruikshankはDickensが言うように、もし昔話が子どもたちの心に大きな影響をあたえるものならば、野卑な行為や偽りは、すべて削除するべきだと主張した。子どもたちには「生涯を通じて、道義上、役にたつ」純粋な印象をあたえなければいけない、泥酔こそ、貧困、病気、犯罪の根源であると考えた。彼は子どもたちが妖精や巨人を本気で信じないように、またそのようなものは、「人をたのしませ、戒めや忠告を伝える」ためのものでしかないと警告している。ちなみにセリーグぐつ（seven-league-Boots）は昔話によく出てくる魔法の宝物の一つでこれをはいて脚をふみだすと、7リーグ（1リーグは約4.8km）歩いてしまう。体の見えなくなるマント、お金のなくなる財布といっしょに、昔話の三種の神器のように使われる。オズボーン・コレクション中最古の本で、1476～1477年ごろVeniceで出版された昔話『リオンブルノ物語』（*Historia di Lionbruno*）に初めて活字として表れている。

2.14 『ばあやが聞かせるわらべうた』（*OLD NURSE'S BOOK OF RHYMES, JIGLES AND DITTIES*）は1858年ロンドンのGriffith and Farran社から出版されたが、この本の扉には彼らの著名な前任者John NewberyとJohn Harrisに結びつけて印刷してあり、この出版社の誇るべき伝統を示している。先の（9を参照）『市場めぐり』のJohn Harrisの表紙絵にあったCorner of St. Paul's Churchyardが所在地である。

編者で挿絵を描いたCharles H. Bennett（1829-67）は子だくさんで、子どもたちを養うために、また彼らを喜ばせるために子どもの本を書いて、それに絵をつけた。

『ばあやが聞かせるわらべうた』の扉に“Shadow”の著者と刷られているが、これは1856年にBennettが描いた最初の成功作で、人間の奇妙なかつこうがたくみに動物の影絵をつくっているところを描いた絵本である。この種の「錯覚」を利用した本は子どもたちにたいへん人気があったが、造りがきゃしゃであったため、今日まで残っているものは、ほとんどない。

『ばあやが聞かせるわらべうた』はイギリスに古くから伝わるわらべうた（いわゆるMother Gooseのうた）がアルファベット順に並べてあり、それぞれにこっけいで楽しい挿絵がつけられている。版本にBennettが直接描いた絵は、Edmund Evansによって彫られ、そのあと、手彩色された。それらは、「まえがき」にある「この本の中の絵を見てきみが吹き出してくれたらぼくの努力はむだではなかった」とあるとおりで、どのページの四隅にも子どもたちのいろいろ変わった表情のカットがあって楽しい。

Bennettは、John Bunyan（1628）の*Pilgrim's Progress*（『天路歷程』）に出てくる人物を描いて、Charles Kingsley に認められ、1860年にBennettの挿絵のついた『天路歷程』が出版された。1865年には、“*The Punch*”の起草者になった。“*Punch*”の創始者で、のちにその編集長になったMark Lemonの“*Fairy-Tales*”（1868）にRichard Doyleと二人で挿絵を描いた。*The History of “Punch”*のなかで、M. H. SpielmannがMr. Linley Sambourne以前では“*Punch*”に登場した起草者の中で最も有望で才能があると述べている。

2.15 『ニュー・ピクチャー・ブック』（*THE NEW PICTURE BOOK being Pictorial lessons on Form, Comparison, and Number, for Children under Seven Years of Age With explanations by Nicholas Bohny*）はドイツの教育者であったNicholas Bohnyが7歳以下の子どもたちのためにつくった絵本で、最初“*Neues Bilderbuch*”（新しい本）という題で、1850年ごろドイツで出版された。それには、約350枚の手彩色の図版が付いていて、1858年、スコットランドのエディンバラで出された英語本にもその絵が使われた。幅35cm、縦27cmで、本文が1から36まであり、24までは、各ページが3段に、25からは2段に分かれ、各ページの各段には、それぞれにちがった物や場面が描かれている。また、それぞれの絵の下には、教師や親が発するための質問事項がいくつか記されている。

この本は、ドイツのKindergartenn（幼稚園）の教育法に刺激を受けて生まれた。ドイツでは、7歳までの子どもをしつける重要性を認めた Friedrich W. A. Fröbel（1782-1852）が、1837年に世界最初の幼稚園を創設した。彼はスイスの教育者、Johann H. Pestalozzi（1746-1827）とともに彼の学校で働いたこともあり、彼が主張する幼い子どもたちが、観察力を身につけなければいけないということに強く影響を受けている。

Bohnyはこの本の序文で、「子どもたちは、物、または、物の絵を容易に理解して、喜んでそれについて調べたり、話したりする」と指摘し、「子どもたちは、形や大きさによって、物を比較したり、はかたりしたいと思うだけでなく、厚いものと薄いもの、長いものと短いものなどを区別することを好む」と述べている。4、5歳以下の幼児は、数字からでなく、

物から正確な数の概念を習得すると主張している。この本は、幼い子どもに数というものを教え、彼らの観察力を訓練する手段としてつくられたものであったが、子どもたちは、年齢を問わず、各ページをうずめる色彩に富んだ、さまざまな絵をたのしみながら、学習したであろう。

2.16 『妖精の国』 (*IN FAIRY LAND A series of Pictures from the Elf World*) は Richard Doyle (1824-83) が挿絵を描き、その絵ができあがったあとで、ラファエル前派に関わりをもつ、アイルランドの詩人 William Allingham (1824-89) に詩を依頼し、Edmund Evansが木版画出版したものである。1870年にロンドンのLongmans, Green, Reader & Dyerから出版されたこの本は、Dr. Johnson's Dictionary (*A Dictionary of the English Language, 1755*) と同じフォリオ判の実に豪華な本である。

この、美しくファンタジックな豪華絵本には、妖精たちの棲む「森の王国」の夜明けから日没後にいたる一日の出来事が書かれている。16枚のDoyleの挿絵は彼の最も優れた作品とも言われている。彼は扉のレタリングや、緑色のクロース表紙の金箔おしや、背のデザインもした。非常に高価であったにもかかわらず、1875年に第2版を出した。8色から12色がかけられた挿絵は、Edmund Evansが手がけた木版画のなかでも、最も大きく、最も野心的な企画だった。

Richard ('Dicky') Doyle は、19歳になった頃には“Punch”に寄稿しており、1843年“Punch”クリスマス号に掲載されたThomas Hood (1799-1845) の“*Song of the Shirt*”の縁飾りを描いたのが初仕事であった。彼のデザインが、1849年から1956年までの107年間、多少の変化を伴いながら“Punch”の表紙として定着した。151年間続いた“Punch”が幕を下ろした1992年4月8日号の“Punch”の表紙にもその有名なパンチの横顔が飾られている。彼は政治風刺画家John Doyleの息子で、名探偵シャーロック・ホームズを創造した、Sir Arthur Conan Doyleは甥にあたる。

ヒューモアがあって、繊細で、「最も卓越した空想」に富む画家と言われたDoyleは、そのころ、最も有名だった多くの作家たちの作品に挿絵を描いた。Charles Dickensの、「クリスマス・ブック (Christmas Book)」シリーズ、楽しいヒューモアのあるおとぎ話で有名なWilliam M. Thackeray (1811-63) の『レベッカとロウィーナ』 (*Rebecca and Rowena*)、子どものための空想物語の古典、John Ruskin (1819-1900) の『黄金の川の王様』 (*The King of the Golden River*) (1851)、Thomas Hughes (1822-96) の『白馬の疾走旅行』 (*The Scouring of the White Horse*) (1859) などである。

先の14、『ばあやが聞かせるわらべうた』のBennettと同様に“Punch”のMark Lemonの『魔法をかけられた人形』 (*The Enchanted Doll*) の挿絵も描いた。Doyle自身、世界の昔話を集めてその本のために30枚の木版画を彫った。しかし、その本が、『ドイルの昔話』 (*The Doyle Fairy Book*) として出版されたのは、彼の死後1890年のことであった。

大人の読者に高く評価された“Punch”の挿絵画家たちが描いた、このような子どものため

の絵本が子どもの心を深くとらえたことは言うまでもないことであろう。

2.17 『犬の晩さん会』(*THE DOGS DINNER PARTY*) はロンドンのGeorge Routledge & sons社で1866年から出しはじめた「シリング・トーイ・ブックス (Shilling Toy Books)」シリーズの第45巻である。「トーイ・ブック」ということばは、おもしろい話、あるいは、おかしな物語という意味で、シェイクスピア時代 (1590年) にすでに使われていた。

先の16、『妖精の国』と同年の1870年出版であるが、対照的で、値段も1シリングと表紙に記してあるように、6ページと薄く、横23cm、縦27cmのいかにも子どもたちに手軽に読まれたとわかる絵本である。文字も大きく書かれている。

1855年から1875年にかけてさかんに活躍した挿絵画家のなかには、すぐれた黒白の木版画を制作した人が多かった。そのころ最も成功した挿絵画家は、Arthur Hughes (1832-94) とJohn Tenniel (1820-1914) である。黒白の木版画の復活と同時に、油の着色印刷の技法が完成され、普及しつつあったが、その著しい例が、1865年から1885年までのあいだに流行し、人気を博した数多い「トーイ・ブック」であった。この方面の出版で、他社を圧していたのは、Frederick WarneとGeorge Routledgeである。これらの2社は廉価でしかも魅力のある絵本をつくりだした。これらの着色版製作者兼印刷業者であったEdmund Evansもついにその多くの仕事をこなすのに、Joseph Kronheimや、Leighton兄弟たちに仕事を受け持ってもらおうようになる。『犬の晩さん会』は、彼らが着色印刷している。

『犬の晩さん会』に登場するのは人間の服装をした犬で、紳士的な犬と淑女の犬の晩さん会に作法をわきまえないブルドッグ氏が一人で晩さん会をめちゃめちゃにしてしまう。このことは道徳観の低い人を避けるよう (avoiding low company) 注意しなければならないことを教えていますと結ばれている。

2.18 『シング・ソング』(*SING-SONG*) は1872年ロンドンで、先の『犬の晩さん会』を出版したGeorge Routledge & sons社から出版された。この本は、*Children & Books*の1484年から1908年までの47冊のMilestones in the History of Children's Literatureのなかの1冊である。詩を書いたChristina G. Rossettiは幼い子どものために理想的な抒情詩を『シング・ソング』で紹介したと評されている。暖かく親しみやすい詩は楽しい童謡であるが、“Mother Goose”よりことばをもっと複雑に操っている。巧みな子音と母音の繰り返し、語られることばに柔らかさと優しさを与えている。大人が子どもにまさしく歌うように読んで聞かせる本である。

『シング・ソング』に120枚の挿絵を描いているArthur Hughesは1848年に、自然に忠実であること、純真な理想を持つべきことなどを主張して結成されたラファエル前派 (Pre-Raphaelite Brotherhood) に傾倒していた。Dante Gabriel Rossetti (1828-82)、William Holman Hunt (1827-1910)、John Everett Millais (1829-96) の三人がこのグループの中心であった。Christina G. Rossettiは、Dante G. Rossettiの妹で、Arthur Hughesがこの本の

挿絵画家に選ばれたのは、そうしたなりゆきであった。Dalziel兄弟社で彫られたHughesの120枚の木版画は繊細、優美で詩の雰囲気完全に与えている。Hughesの絵は童謡の挿絵でありながら、厳粛さを感じさせる。

横14.5cm、縦18.5cm、厚さ3.5cmでroyal blueと金箔で装飾されたこの本は、19世紀を通じて、その時代のgraphic designに影響を与え、Modern Artの基礎をつくる役割の一端を果たしたラファエル前派と、1860年代から1870年代の芸術の特徴を示す最も適切な一例の一つである。

2. 19 『古いお友だちのアルファベット』 (*THE ALPHABET OF OLD FRIENDS*) は、1875年、先の『犬の晩さん会』を出したGeorge Routledge & sons社から、「トイ・ブックス」シリーズの第73巻として出版された。Mother GooseのNursery Rhymes（わらべ唄）を出だしの文字によってABC順に並べたアルファベット絵本である。

アルファベット絵本は、19世紀の後半ひとつの流行であった。子どもに文字を教えるのみならず、道徳的示唆や、たとえばEdward Learは愉快なナンセンスの音声を、Greenawayの『アップル・パイ (*A Apple Pie*)』(1886) は美の世界を、Walter Craneは質の高い愉快な魅力を提供している。Craneのこの本では、金色の輪の中にアルファベットの大字が描かれて、それぞれ、趣を変えてレイアウトされたページに昔から歌い継がれてきた童謡の人気者が登場する。

挿絵を描いたWalter Crane (1845-1915) は画家であり、詩人でもあったWilliam Morris (1834-96) と長い交友関係があり、彼から作品や芸術上の考えに大きな影響を受けている。また、CraneはEdmund Evansと画家と彫版師兼印刷業者という関係でチームを組んで、非常に多くの作品を生み出し、「トイ・ブックス」をShilling Toy Books. からNew Series of Shilling Toy Books. としてはじめ、一部重複したが、1876年に完結している。『古いお友だちのアルファベット』の裏表紙には、第70巻から第79巻はThe following are from designs by Walter Crane. と記されている。この新しい「シリング・シリーズ」はCraneたちの色彩の使い方や印刷方法によって、いっそう念入りなものになっている。Craneの絵本のどのページにも判じ絵紋で、Wの文字を1羽の「鶴 (crane)」が二分していて、それをCの大字が囲んでいるサインがある。

『長ぐつをはいた猫』 (*PUSS IN BOOTS*) は、最初、1873年に、George Routledge and sons社から出版された。かなりの時がたって、1895年に、John Lane社が、古い「トイ・ブックス」をクリスマス向けに再発行した。Craneは見返しやカバーを新しくし、装いを新たにした。・Walter・Crane's・Picture・Books: re: issue・シリーズとして、6冊のアルファベット本を、3冊ずつ、その年と、1896年に出した。最後に『長ぐつをはいた猫』『シンデレラ』『ヴァレンタインとオルソン』の3冊が1897年に出ている。

Craneは北斎、広重などの版画を1860年代の末ごろに見てその影響を受けた。はっきりした黒の輪郭、濃淡をつけない色、強い墨色などとなって「トイ・ブックス」の中にも見ら

れるが、『長ぐつをはいた猫』の墨の使い方は見事である。粉屋の息子は、Crane自身の若いころの自画像であり、猫が息子に長ぐつをねだっている最初のページの絵は、彼が「トニー・ブックス」のなかで描いた絵のうちでも、最も愉快なもののひとつといわれる。

2.20 『ナンセンスの本』(*A BOOK OF NONSENSE*)の初版はアンデルセン(Hans Christian Andersen (1805-75))の『子どものためのふしぎなお話集』(*Wonderful Stories for Children*)が英訳された、英語圏の子どもたちにとって幸運な年、1846年に出版された。詩と挿絵を描いたEdward Lear (1812-1888)の愉快的ナンセンスを求める声は非常に強く、版を重ね、1870年代には石版の挿絵が新しいカラー印刷になって出版された。1875年、ロンドンのFrederick Warne & co. から出版されたこの本は130の挿絵が付いている。

イギリスでは、1820年ごろLimericks(リメリック)の本がいくつか出されている。リメリックは5行からなる遊戯詩の一形式であるが、韻は多くaabbaとふみ、第3行と4行は他の行の半分の長さである。その最初の例は、1820年にJohn Harris社から出た*The History of Sixteen Wonderful Old Women*および1822年に出版されて、Richard S. Sharpeの作とされている別の詩集『十五人の紳士たちの逸話と冒険』(*Anecdotes and Adventures of Fifteen Gentlemen*)にある。Learはその中にある、‘There was an Old Man of Tobago’の詩に影響を受け、この本が出て、リメリックが普及した。

Queen Victoria朝、イギリス産業革命が開いていた時代に突然現れ、子どもたちを爆笑させた二人の児童書作家といわれるのがEdward Learと、Lewis Carrollのペンネームで、*Alice's Adventures in Wonderland*を書いたCharles Lutwidge Dodgson(1832-1898)である。

Learのリメリックに書かれるナンセンスの面白さと、それに添えられる彼のスケッチ画が相まって子どもたちの笑いにつながる。

2.21 『窓の下で』(*UNDER THE WINDOW*)はKate Greenawayが絵とその画面の中に彼女が子どものための押韻詩を書いている。横19cm、縦23cmの緑色の色調のこの本は、表紙はもとより、8ページにわたる目次には、それぞれに、50の詩につけられたGreenawayの挿絵が縮小されて描かれている。この本は1878年にGeorge Routledge & sons社から出版された。彫版と印刷はEdmund Evansであるが、画家として20歳代で立派に自立していたGreenawayのその才能と文学的な才能を結びつけることを考えたのがEdmund Evansであった。また美術評論家のJohn Ruskin(1819-1900)も彼女を高く評価し、Oxford大学でGreenawayについての講演をするなど、20年間にわたり、彼女の良い助言者であった。

Greenawayの魅力的な水彩画やパステル画は、子どものための本に独創的な輝きを与えている。優しいヒューモアや優雅さを見る者に喜びを与える。Evansと共同でつくった『窓の下で』は、彼女の作品の中で最良といわれている。

1955年、イギリス図書館協会(the British Library Association)は、毎年イギリスで初版される、子どもの本の優れた挿絵に与える賞としてThe Kate Greenaway Medalを制定した。

2.22 パントマイムおもちゃ絵本『シンデレラ』（*CINDERELLA*）は横19cm、縦25cmのToy Bookであるが、表紙にあるPANTOMIMEというのは、イギリスの子どもたちにとってクリスマスに演じられるおとぎ芝居を意味する。9ページにわたってシンデレラのお話が4つの文字の大きさ、語り口の違い、タイトルが、*CINDERELLA*あるいは、*CINDERELLA; OR, THE GLASS SLIPPER.* と変えられて語られており、5ページと6ページの間に、劇場の舞台が描かれた見開きの挿絵がある。さらに、その間には、縦15.5cmの挿絵のページが挟んでありさらにそれらのページは細かく12の舞台シーンが現れるしかけになっている。次々に変化する絵は、子どもの読者に、まるで物語が上演されているような感じをあたえる。

1880年にロンドンのDean & sonから出版されているが、挿絵画家の名は入っておらず、裏表紙にあるこのシリーズの広告に、シーンが動く、(Moveable) *Punch & Judy*の宣伝もある。1841年ロンドンに生まれた大人のためのヒューモアの粹“*Punch*”の、Doyleが描いたMr. Punchが子どもにも人気であったことが解かる。

Cinderellaは‘Little cinder girl’の意で、世界で最もよく知られているお話である。フランスのPerrault、およびドイツのGrimm兄弟の童話にみられる。紀元前850年から860年の間に中国で書かれた本の中に同様のお話がありいちばん古い例である。19世紀初めの教育者たちに、若い娘たちに王子と結婚できるかもしれないという空想を抱かせるのはよくないと反対されたが、それにもかかわらず、「シンデレラ」は、今日まで多くの世代の子どもたちを楽しませてきた。

2.23 『ジョン・ギルピンの愉快なお話』（*THE DIVERTING HISTORY OF JOHN GILPIN*）／『森の中の子どもたち』（*THE BABES IN THE WOOD*）は、ともにRandolph Caldecott（1846-86）の絵本である。Caldecottは先の（19を参照）「トーイ・ブックス」シリーズでCraneの後継者として1877年ごろ、Edmund Evansに見出された。Kate Greenaway、Walter Crane、Randolph CaldecottはEvansが仕事を依頼した画家の中でも特に、偉大な絵本画家3人組みといわれる。

『ジョン・ギルピンの愉快なお話』は、1878年のクリスマス向けにつくった彼の最初の2冊の「トーイ・ブックス」のうちの1冊である。彼の絵は、人を陽気にさせる彼自身の天分が現れている。イギリス中西部のShropshireに育ったCaldecottは、狩り、犬、馬など楽しい18世紀のイギリスの田園風景の描写に優れている。William Cowper（1731-1800）のユーモラスな詩*The Diverting History of John Gilpin*（1785）を絵本に仕立てたものである。1938年以來毎年、アメリカ図書館協会（the American Library Association's Children's Services Division）からアメリカ在住の最も優れた絵本の挿絵画家に贈られるThe Caldecott Medalには、全速力で馬を走らせるジョン・ギルピンの姿がデザインされている。

『森の中の子どもたち』（1880）は昔から伝わる民話である。悲劇的なお話の中にも、Caldecottの個人的なジョークが見られ、‘A gentleman of good account’（評判の良い紳士）はCaldecott自身、白髪交じりの‘ruffian’（悪者）のボスはEdmund Evansをモデルにして

描いている。Caldecottは人間や動物を心から理解し、生きることの喜びを知り、本能的に子どもの喜びをつかんでいた。

2.24 『おとぎの“アリス”』(*THE NURSERY “ALICE”*)は、Oxford大学の数学者であったCharles Lutwidge Dodgson (1832-1898)がLewis Carrollのペンネームで1865年に出版した「ふしぎの国のアリス」(*Alice's Adventures in Wonderland*)が1889年に簡単なかたちで書き改められたものである。この本の本文は原作の約四分の一である。Sir John Tenniel (1820-1914)が原作のために描いた挿絵のうち、20枚が、Tenniel自身の手で彩色され細部に手が加えられ、サイズは少し拡大されている。印刷はEdmund Evansが受け持ち、Gertrude Thomson (1850-1929)というDodgsonの20年以上も文通を続ける仲であった画家が新しい表紙を描いた。

Dodgsonは1885年の日記の中でも、もっと幼い子どもたちに「アリス」を読んでもらいたいと書き記していた。原作は児童文学の中でも最もよく知られ、最もよく愛読されてきた本ではあるが、年齢としては高校生が対象のレベルであると言っている。

Tennielは1850年から1901年まで“Punch”誌専属として才筆をふるった。“Punch”の最も優れた“Cartoonist”と評されている。彼は動物と寓意的な絵が得意で、彼の作品には品位とヒューモアがある。自作に挿絵を描いたDodgsonを含む多くの「アリス」を描いた画家のうちでTennielは、物語そのものの解釈が卓抜している。

2.25 『幼な子のイソップ』(*THE BABYS' OWN AESOP*)は、19cmの正方形の絵本で、1887年ロンドンとニューヨークで出版された。先の(19を参照)Walter CraneとEdmund Evansの「トイ・ブックス」シリーズが1867年から30冊以上主にRoutledgeから出版され、1876年に完結したのち、二人が企画した『幼な子の…』シリーズの3冊目である。『幼な子のオペラ (The Baby's Opera)』(1877)と『幼な子の花たば (The Baby's Bouquet)』(1878)は、イギリスの童謡集で、詩、挿絵、音楽からなり、曲はCraneの妹Lucy Crane (1842-82)が編曲したものを載せた。これらは、Craneが描いた子どもの本のうちで最も高い評判を得た。『幼な子のイソップ』は、これらと同じようにCraneが表紙、扉、見返し、手書きで書いた本文のすべてが調和するようにデザインしている。

この本は、曲はなく一ページに一つのイソップの寓話が載せてあるが、ページ毎にその色調やデザインが異なり、その凝った装丁は子どもだけを対象に作られたものではないことがわかる。動物の写実的な描写などは、はたして幼な子がおもわず本を閉じてしまうのではないかとさえ思われる。営業的には他の2冊に比較して成功していない。

2.26 『二つのオランダ人形の冒険』(*THE ADVENTURES OF TWO DUTCH DOLLS*)はFlorence K. Uptonが絵を描き、母親のBertha H. Uptonが詩を書いている。クリスマス・イヴに人形たちがおもちゃ屋の箱から飛び出して、お祭り騒ぎをして明け方までに戻ってく

るお話である。この本の原稿はLongmans, Green社の子どもの反応が良かったため出版が決まり、1895年にLongmans, Green & co. から出された。

この本は出版されるや人気を博して、この本に出てくるアフリカ系のイメージを持つ人形Golliwoggがその後主人公になるシリーズが1909年まで毎年一冊ずつ出された。『二つのオランダ人形の冒険』にも、日本から来た“Magnate”（大事業家）が登場しているが、『ゴリウォグの自転車クラブ』（The Golliwogg's Bicycle Club）』（1896）では、人形たちは日本を訪れる。

Uptonの本は先の（25を参照）『幼な子のイソップ』とは対照的に、子どもたちには愛されたが、批評家たちからは、醜悪で、ばかばかしいと非難された。しかし、ある批評家が、「Golliwoggは、まことに醜い。しかし、心はやさしく、愛すべき人形だ。子どもたちは物語の登場人物の本質を読みとる点では、大人よりもはるかに先んじているのだろうか?」と書いた。イギリスの子どもたちのあいだで、Golliwoggは大人気となり、人形ができ、このキャラクターの文房具用品や、ゲーム、カード、壁紙などもあらわれた。また、脚色され、上演されている。クロード・ドビッシー（Claude Achille Debussy）は1908年、当時4歳になる娘のためにピアノ曲「子供の領分」をつくったが、その6曲のうち最後のいちばん有名な曲は、「ゴリウォグのケーキウォーク（Golliwogg Cake-Walk）」である。

3. 結び

作家、挿絵画家、彫版師、出版人の時をかけた努力の成果が、子どもの本の挿絵の位置を確立したが、1890年代になり着色の工程が進歩し、『二つのオランダ人形の冒険』は、石版で巧みに色刷りされている。20世紀の絵本へつながる作品として、子どもたちを取り巻く世界の広がりを見据えてこの本が34冊目であることは、石井桃子氏と、ほるぷ社の選択眼の確かさである。

18世紀から19世紀末までのイギリスの児童書を調べていくということは、その時代の読み手であり、あるいは読み、歌い聴かされた子どもたちを目に浮かばせることであり、またそれらを与えた親や大人の思いをくみ取ることでもあった。さらにそのことは本の作者はもとより、それらに携わった出版社、挿絵画家、そうして、その時代の科学者、思想家、教育者、君臨していた王族、社会的、文化的に経済力のあった貴族などを含む大人たちが未来を託す子どものことをいかに考えていたかを学ぶことであった。

参考文献

- Wright, Fisher Blanche. Illustrated. *The Real Mother Goose*. Seventy-fifth printing. Chicago: Rand McNally & Company, June, 1983.
- Sutherland, Zena, Monson Dianne L., Arbuthnot, May Hill. *Children and Books*. Sixth Edition. Glenview, Illinois: Scott, Foresman and Company, 1981
- Comenius, Johann Amos. *ORBIS SENSUALIUM PICTUS*. London: S. Leacroft, 1777.

- Newbery, John. First published. *GOODY TWO-SHOES* A facsimile reproduction of the edition of 1776, with an introduction by Charles Welsh. London: Griffith & Farran, 1881.
- Bewick, Thomas. illustrated. Saint, T. printed. *A NEW YEARS GIFT* for Little Masters & Misses. Newcastle: T. Saint, for W. Charnley, 1777.
- Upton, Lady Templetown. *THE BIRTH-DAY GIFT or the Joy of a New Doll from Papers Cut*. London: Tomkins, 1796.
- Darton, William. *THE DEATH AND BURIAL OF COCK ROBIN*. London: William Darton, 1806.
- Darton, William and Thomas. *THE MOVING ADVENRURES OF OLD DAME TROT AND HER COMICAL CAT*. London: W. & T. Darton, 1807.
- Roscoe, William. Engraved after Mulready, William. *THE BUTTERFLY'S BALL AND THE GRASSHOPPER'S FEAST*. London: John Harris, 1807.
- Mrs. Dorset. *THE PEACOCK "AT HOME"*. London: John Harris, 1808.
- T. Newton. *THE MANSION OF BLISS*. London: W. Darton, 1810.
- Saito, Takeshi. *DICTIONARY OF ENGLISH AND AMERICAN LITERATURE*. Tokyo: Kenkyusha Limited, 1985.
- Brandard, T. printed. *DIAMOND AND TOADS or Humility Rewarded, and Pride Punished*. Birmingham: 1810.
- Houlston, F. & son printed. *SCRIPTURE HISTORIES from the Creation of the World, to the Death of Jesus Christ*. Wellington: 1825.
- Rusher, J. G. Printed. *JACK AND JILL, AND OLD DAME GILL*. Banbury: 1830.
- Spielmann, M.H. *The History of "Punch"*. London, Paris, & Melbourne: Cassell and Company, Limited, 1895.
- Harris, John. *A VISIT TO THE BAZZR*. London: John Harris, 1818.
- Darton & Clark published. *THE OCEAN AND ITS INHABITANTS* with their Uses to Man. London: Darton & Clark, 1844.
- Summerly, Felix edited. *THE TRADITIONAL FAERY TALES of Little Red Riding Hood, Beauty and the Beast & Jack and the Bean Stalk*. London: Joseph Cundall, 1845.
- Thomas, William J. edited. *THE GALLANT HISTORY OF BEVIS OF SOUTHAMPTON/A MOURNFUL DITTY OF THE DEATH OF FAIR ROSAMOND/THE SWEET AND PLEASANT HISTORY OF PATIENT GRISSEL*. London: Joseph Cundall, 1845.
- Cruikshank, George edited and illustrated. *HOP-O'MY-THUMB AND THE SEVEN-LEAGUE BOOTS*. London: David Bogue, 1853.
- Bennett, Charles H. edited and illustrated, Evans, Edmund. engraved. *OLD NURSE'S BOOK OF RHYMES, JINGLES AND DITTIES*. London: Griffith & Farran, 1858.
- Bohny, Nicholas. explanations. *THE NEW PICTURE BOOK being pictorial Lessons on Form, Comparison, and Number, for Children under Seven Years of Age*. Edinburgh: Edmonston & Douglas, 1858.
- Doyle, Richard. illustrated, Allingham, William. poem, Evans, Edmund. engraved & printed. *IN FAIRY LAND A series of Pictures from the Elf-World*. London: Longmans, Green, Reader & Dyer, 1870.
- Kronheim & co. printed. *THE DOG'S DINNER PARTY*. London, Manchester & Glasgow: George Routledge & sons, 1870.

- Rossetti, Christina G. poem. Hughes, Arthur. illustrated. the brothers Dalziel. engraved. *SING-SONG. A Nursery Rhyme Book*. London: George Routledge & sons, 1872.
- Crane, Walter. illustrated. Evans, Edmund. printed. *THE ALPHABET OF OLD FRIENDS*. London & New York: George Routledge & sons, 1875.
- Crane, Walter. illustrated. *PUSS IN BOOTS*. London & New York: John Lane, 1897.
- Lear, Edward. *A BOOK OF NONSENSE*. London: Frederick Warne & co., 1875.
- Greenaway, Kate. Pictures and Rhymes for Children. Evans Edmund. engraved & printed. *UNDER THE WINDOW*. London & New York: George Routledge & sons, 1878.
- Dean & son. published. *CINDERELLA with Five Set Scene and Nine Trick Changes*. London: Dean & son, 1880.
- Cowper, William. written. Caldecott, Randolph. illustrated. Evans, Edmund. engraved & printed. *THE DIVERTING HISTORY OF JOHN GILPIN*. London: George Routledge & sons, 1878.
- Caldecott, Randolph. illustrated. Evans, Edmund. engraved & printed. *THE BABES IN THE WOOD*. London: George Routledge & sons, 1880.
- Carroll, Lewis. text. Tenniel, John. illustrated. Thomson, Gertrude. cover designed and coloured. *THE NURSERY "ALICE"* London: Macmillan & co., 1889.
- Crane, Walter. illustrated. Evans, Edmund. engraved & printed. *THE BABY'S OWN AESOP*. London & New York: George Routledge & sons, 1887.
- Upton, Florence K. illustrated. Upton, Bertha H. words. *THE ADVENTURES OF TWO DUTCH DOLLS*. London & New York: Longmans Green & co, 1895.
- The Oxford English Dictionary*. Volume XI T-U. Oxford: Clarendon Press, 1978.
- 石井桃子、編集委員代表、「復刻 世界の絵本館－オズボーン・コレクション－」解説、東京：ほるぷ出版、1984.
- ほるぷ出版、編集・刊行、「復刻 世界の絵本館－オズボーン・コレクション－」〈絵本ガイド〉東京：ほるぷ出版、1984.
- 高松節子、『パンチ』のジョーク素描 — スコティッシュ・ヒューモア — 「ふじみ」通巻 第20号、東京：こびあん書房、1998.
- Muir, Percy. *ENGLISH CHILDREN'S BOOKS 1600 to 1900*. New York: Frederick A. Praeger, Inc., 1954.

Summary

Kate Greenaway's Calendar for 1884

Setsuko Takamatsu

Edmund Evans was greatly taken with the delicate colors and decorative colors of Kate Greenaway's pictures for her own rhymes. He printed her book *Under the Window* (1878) by a costly process that reproduced the pictures with remarkable fidelity. To her surprise, the artist found herself famous almost overnight, and she outsold all the other artists of her day, the initial sales of *Under the Window* running to some 70,000 copies. It still sells, and Evans's firm is still printing her books.

Her style was unique-graceful but static figures in quaint old-fashioned clothes, at play, at tea, or otherwise decorously engaged. The pages are gay with garlands of fruits or flowers, mostly in delicate pastel colors. Her pictures often have a gentle humor, and their grace and charm still delight the eye.

Keywords Children, Children's Books, England, The 18th C., The End of 19th C., Illustrators, Publishers, Humor

(2008年10月4日受領)